

# 経営比較分析表

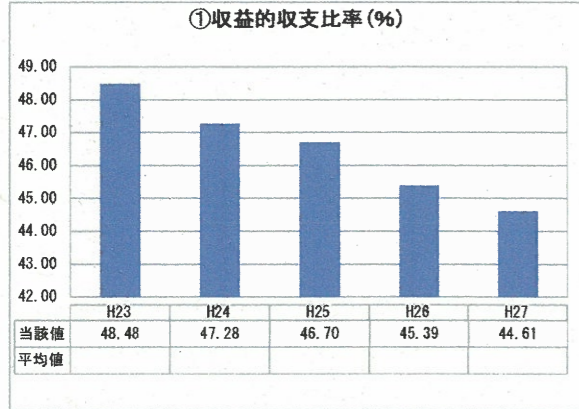
兵庫県 相生市

| 業務名       | 業種名         | 事業名    | 類似団体区分 |
|-----------|-------------|--------|--------|
| 法非適用      | 下水道事業       | 農業集落排水 | F2     |
| 資金不足比率(%) | 自己資本構成比率(%) | 普及率(%) | 有収率(%) |
| -         | 該当数値なし      | 13.18  | 99.86  |

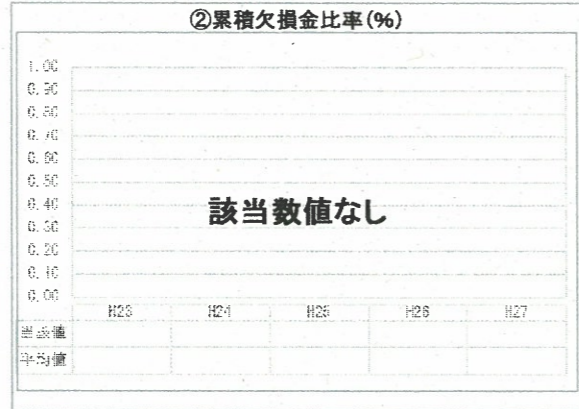
|            |                          |                               |
|------------|--------------------------|-------------------------------|
| 人口(人)      | 面積(km <sup>2</sup> )     | 人口密度(人/km <sup>2</sup> )      |
| 30,453     | 90.40                    | 336.87                        |
| 処理区域内人口(人) | 処理区域面積(km <sup>2</sup> ) | 処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> ) |
| 4,003      | 1.37                     | 2,921.90                      |

|                                |
|--------------------------------|
| 1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円) |
| 2,869                          |

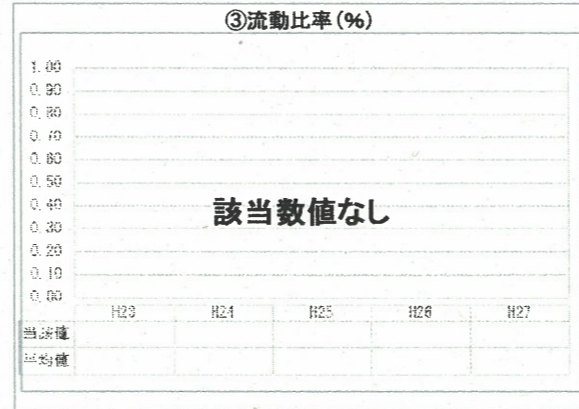
## 1. 経営の健全性・効率性



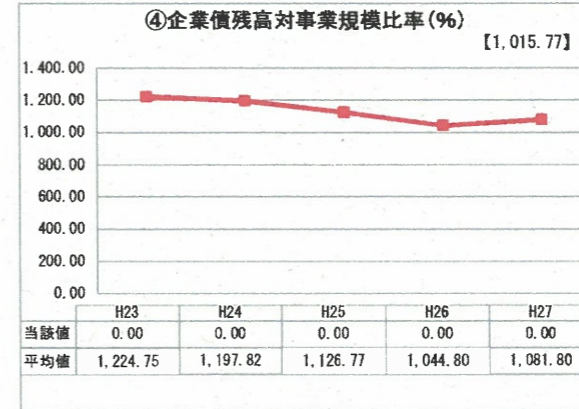
「単年度の収支」



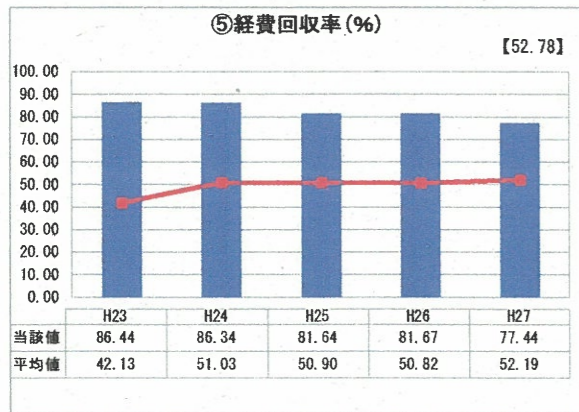
「累積欠損」



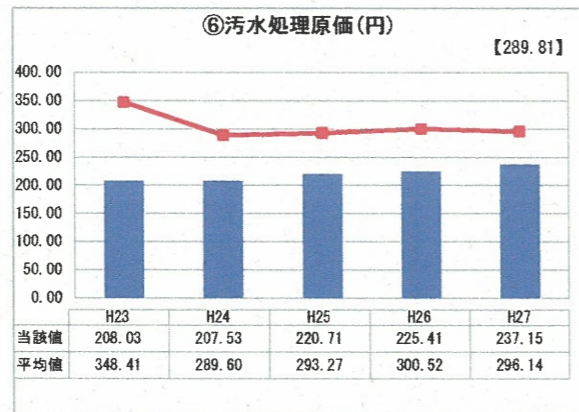
「支払能力」



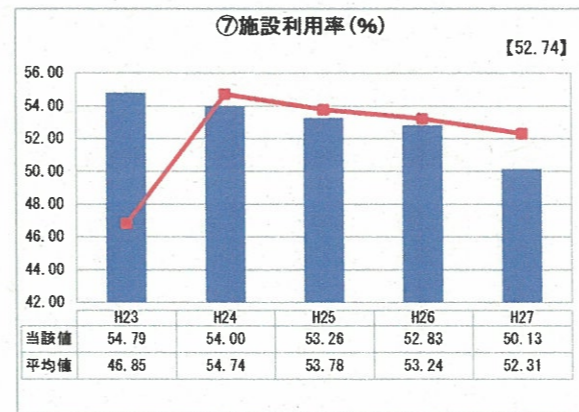
「債務残高」



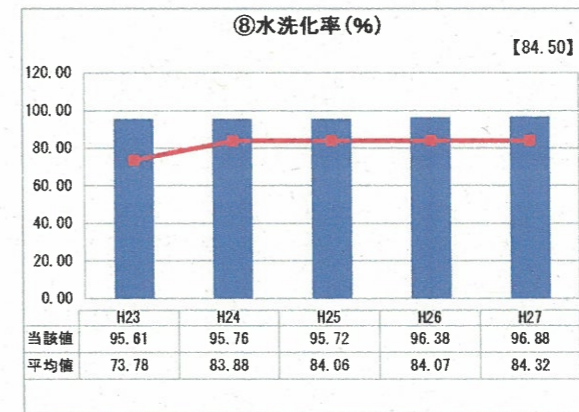
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

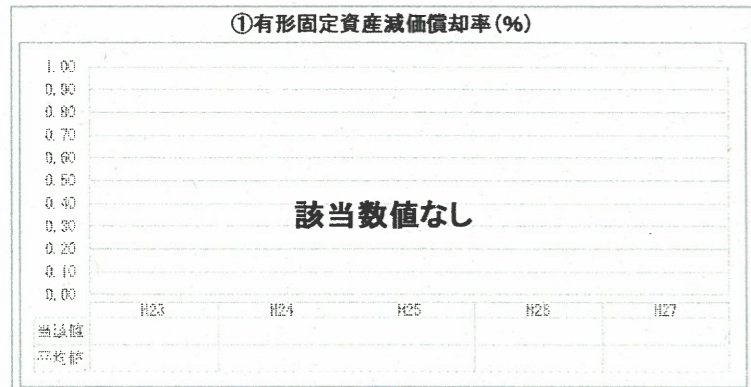


「施設の効率性」

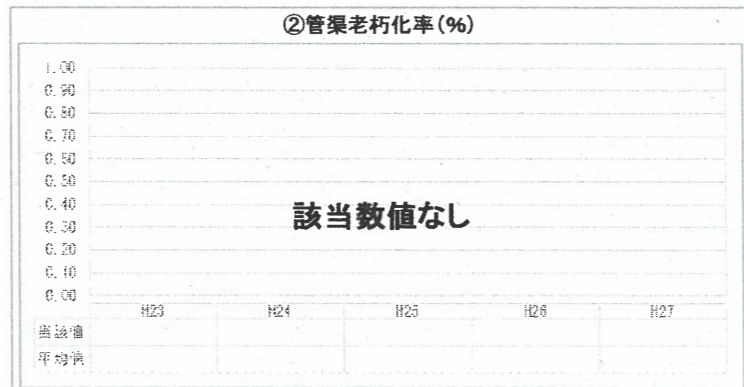


「使用料対象の捕捉」

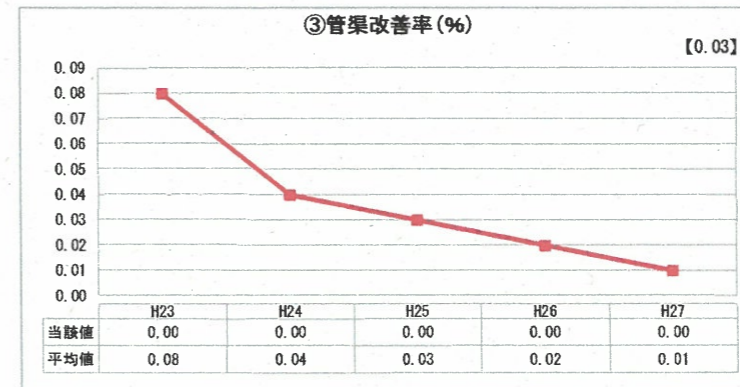
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

**グラフ凡例**  
 ■ 当該団体値(当該値)  
 — 類似団体平均値(平均値)  
 【】 平成27年度全国平均

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

水洗化率が96%程度と普及がほぼ進んだ状況にあるが、人口減少や節水傾向に加え、処理場が7か所に分散したことで整備に係る企業債償還の費用が大きい。このため、現状の使用料収入規模では経費をカバーしきれず、収益的収支が低くなっている。経費回収率や汚水処理原価は類似団体よりも状況はよく、施設利用率も平均程度であることから施設や経営の効率性が類似団体より著しく悪い状況ではないものの、経費すべてを賄える状況ではなく、一般会計からの繰り入れによる支援が必要な状況が続いている。

### 2. 老朽化の状況について

管渠については耐用年数から鑑みて、現状の経過年数では直ちに老朽化対策に取り組む状況ではないため、適正な維持管理業務を継続することで良好な状況を維持することとなる。処理場に関しては、経過年数から機器類の老朽化が懸念される状況もあり、国庫補助を活用した機能強化事業を実施し、機能診断に基づいた設備の延命化なども組み合わせ、コストの平準化にも取り組んでいる。

### 全体総括

水洗化が概ね普及していることから、今後の大幅な利用増は見込めない中、将来の更新費用の確保や維持管理経費の削減と、汚水処理事業全体の効率性の向上を図る面から、公共下水道事業への統合や使用料体系のありかたといった経営改善の取り組みを「経営戦略」の策定を通じて続けていく必要がある。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。  
 ※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。

# 経営比較分析表

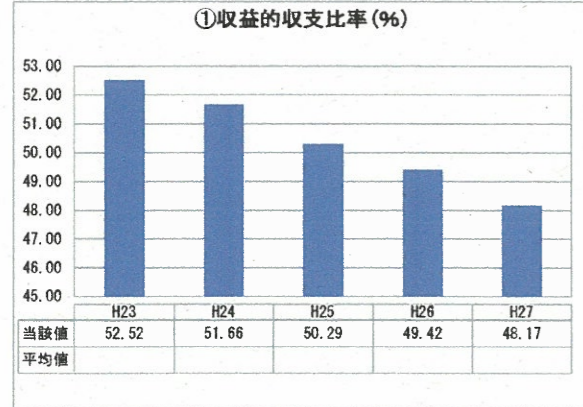
兵庫県 相生市

|           |             |           |        |                                |
|-----------|-------------|-----------|--------|--------------------------------|
| 業務名       | 業種名         | 事業名       | 類似団体区分 |                                |
| 法非適用      | 下水道事業       | 小規模集合排水処理 | 12     |                                |
| 資金不足比率(%) | 自己資本構成比率(%) | 普及率(%)    | 有収率(%) | 1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円) |
| -         | 該当数値なし      | 0.18      | 100.00 | 2,869                          |

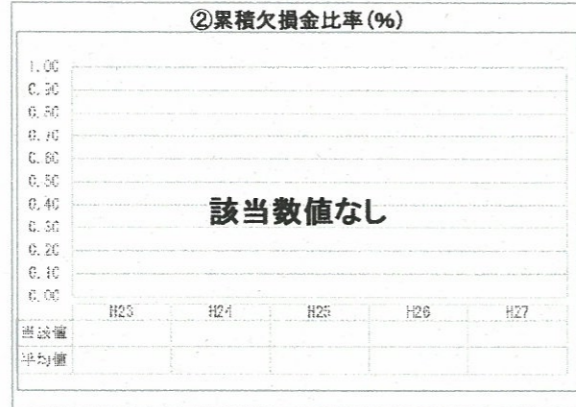
|            |                          |                               |
|------------|--------------------------|-------------------------------|
| 人口(人)      | 面積(km <sup>2</sup> )     | 人口密度(人/km <sup>2</sup> )      |
| 30,453     | 90.40                    | 336.87                        |
| 処理区域内人口(人) | 処理区域面積(km <sup>2</sup> ) | 処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> ) |
| 54         | 0.01                     | 5,400.00                      |

|                |
|----------------|
| <b>グラフ凡例</b>   |
| ■ 当該団体値(当該値)   |
| — 類似団体平均値(平均値) |
| 【】 平成27年度全国平均  |

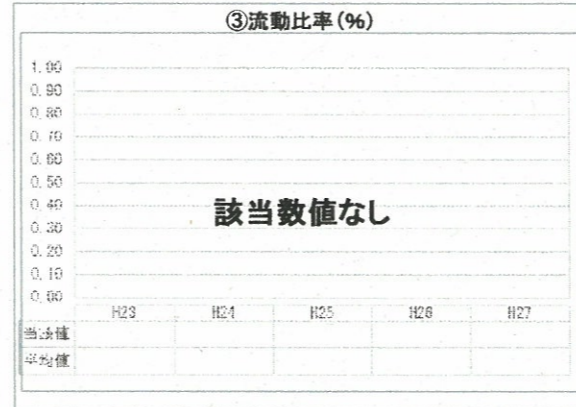
## 1. 経営の健全性・効率性



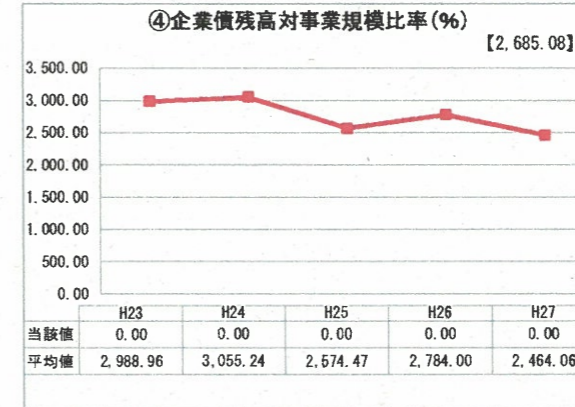
「単年度の収支」



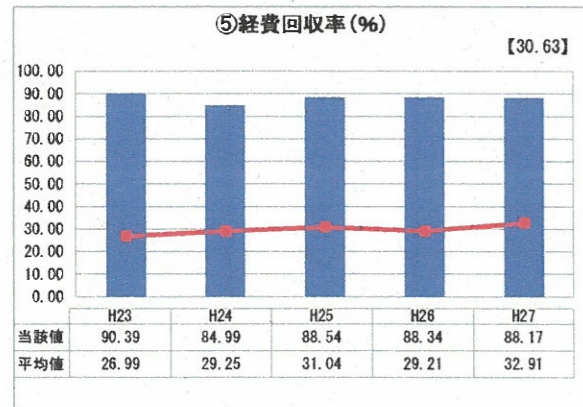
「累積欠損」



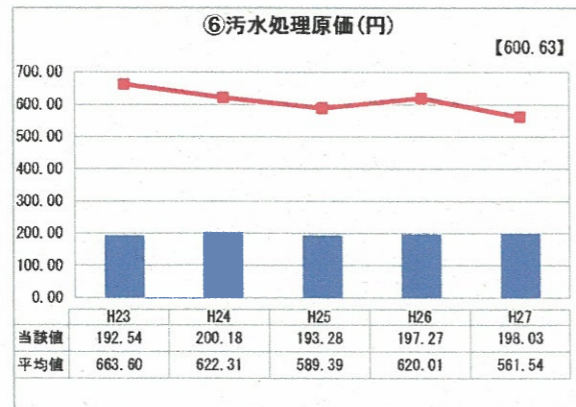
「支払能力」



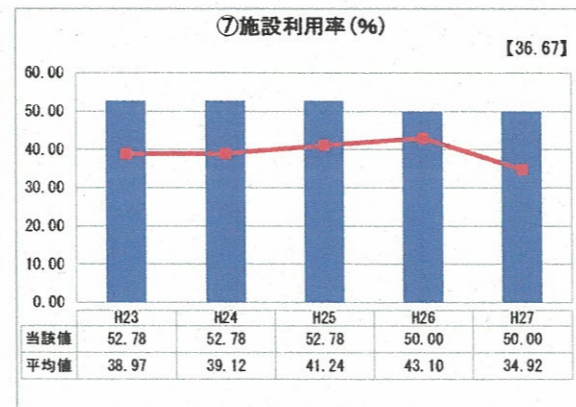
「債務残高」



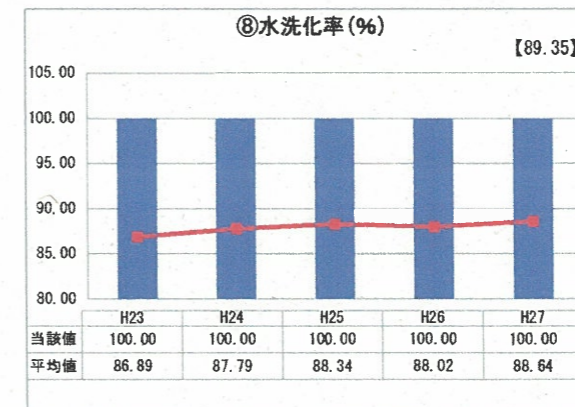
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

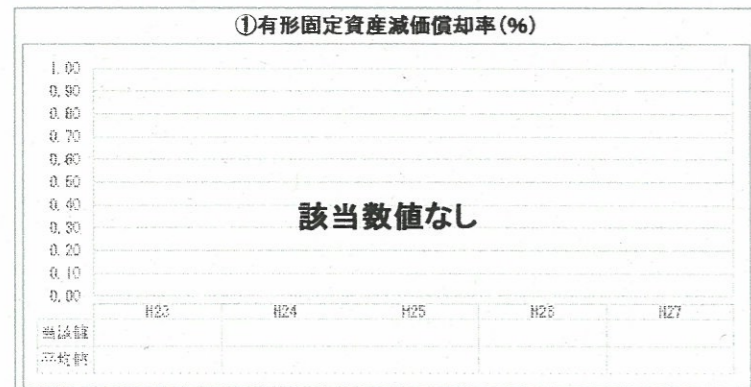


「施設の効率性」

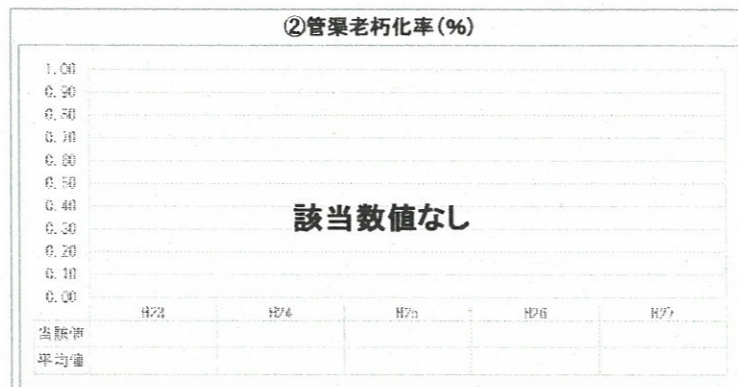


「使用料対象の捕捉」

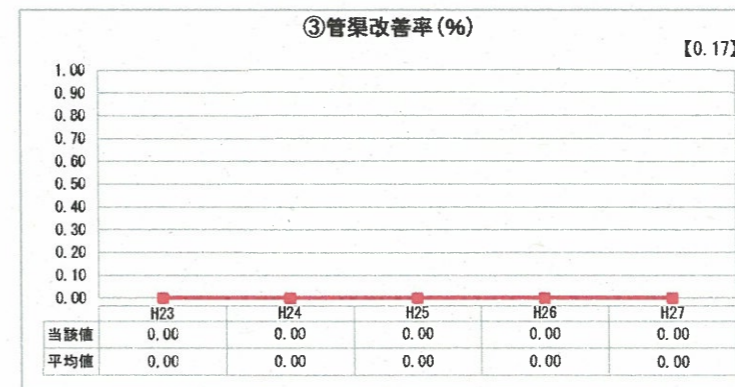
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

地理的要因から公共下水道の供用区域から大きく離れた地区にて実施する事業のため、対象人数が少なく事業も小規模である。既に対象全世帯の水洗化も完了しているため、普及拡大による収入増は見込めない状況にある。  
維持管理業務に関しては農業集落排水事業と一体で委託することで効率性を高め、経費の上昇を抑えているが、近年の有収水量の減少傾向もあって使用料収入が伸び悩んでおり、企業債償還の費用を含めると現状の使用料収入規模ではカバーしきれず、収益的収支比率が低い要因となっている。類似団体に比べ使用料対象経費に対する回収率は高く、利用者の費用負担の水準も低くはないほか、施設利用率も平均以上と経営や施設の効率性が著しく低いとは考えられないものの、結果として一般会計からの繰り入れによる支援が不可欠な状況となっている。

### 2. 老朽化の状況について

供用を開始してから年数が浅いため、管渠、処理場とも当面適正な維持管理の継続によることで大きな更新等は不要と考えられる。

### 全体総括

対象が限定される事業であり、水洗化も完了している現状では利用増が見込めない状況であり、将来の更新費用の確保を含め、使用料体系の検討を含めた経営改善の取り組みを続けていく必要がある。一方で本事業は地理的要因により公共下水道等大規模な集合処理に加われない地区に採用した側面もあるため、使用料体系を含めた経営改善の具体策については、他事業も含めた市の汚水処理事業全体で検討し、実情を踏まえたうえで「経営戦略」を策定して取り組んでいく必要がある。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。

# 経営比較分析表

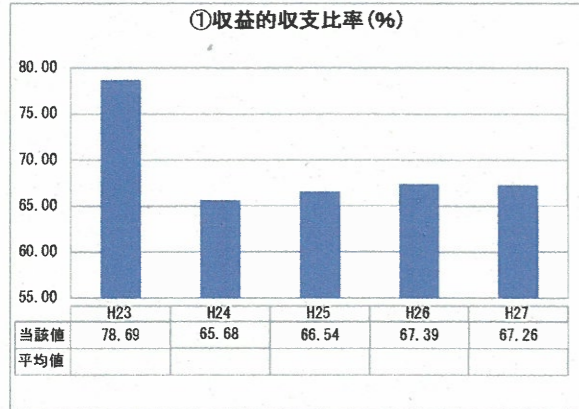
兵庫県 相生市

| 業務名       | 業種名         | 事業名    | 類似団体区分                         |
|-----------|-------------|--------|--------------------------------|
| 法非適用      | 下水道事業       | 個別排水処理 | L3                             |
| 資金不足比率(%) | 自己資本構成比率(%) | 普及率(%) | 有収率(%)                         |
| -         | 該当数値なし      | 0.16   | 100.00                         |
|           |             |        | 1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円) |
|           |             |        | 2,869                          |

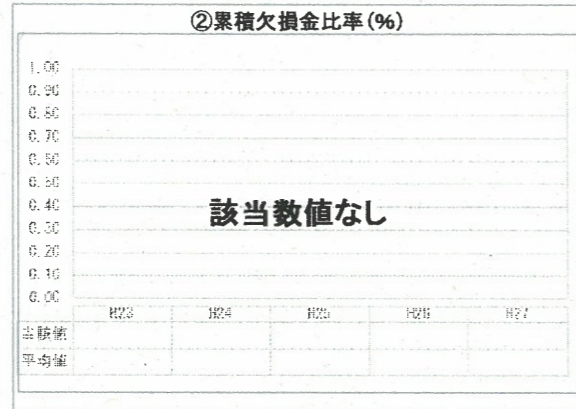
| 人口(人)      | 面積(km <sup>2</sup> )     | 人口密度(人/km <sup>2</sup> )      |
|------------|--------------------------|-------------------------------|
| 30,453     | 90.40                    | 336.87                        |
| 処理区域内人口(人) | 処理区域面積(km <sup>2</sup> ) | 処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> ) |
| 49         | 0.01                     | 4,900.00                      |

| グラフ凡例 |              |
|-------|--------------|
| ■     | 当該団体値(当該値)   |
| —     | 類似団体平均値(平均値) |
| [ ]   | 平成27年度全国平均   |

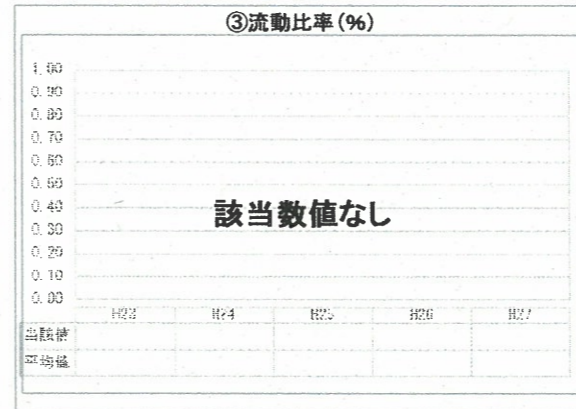
## 1. 経営の健全性・効率性



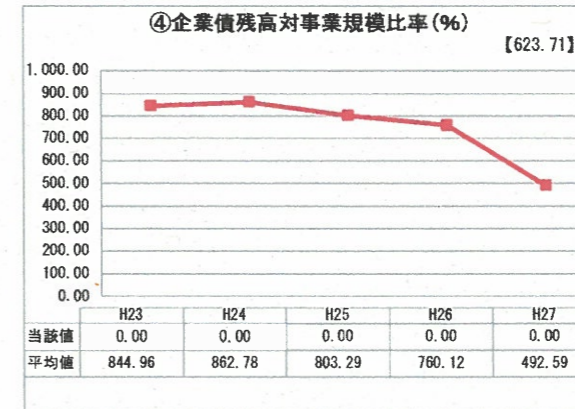
「単年度の収支」



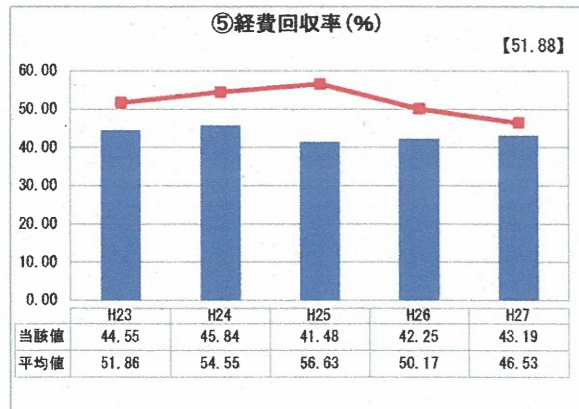
「累積欠損」



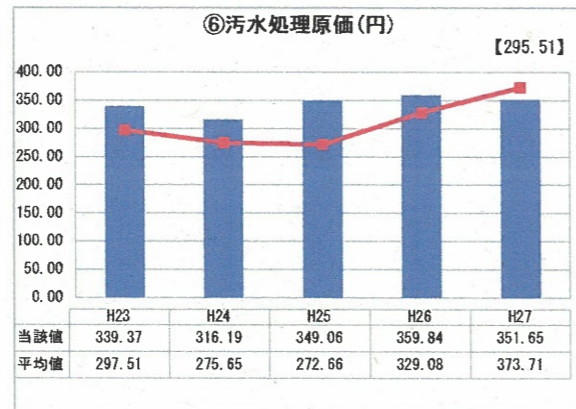
「支払能力」



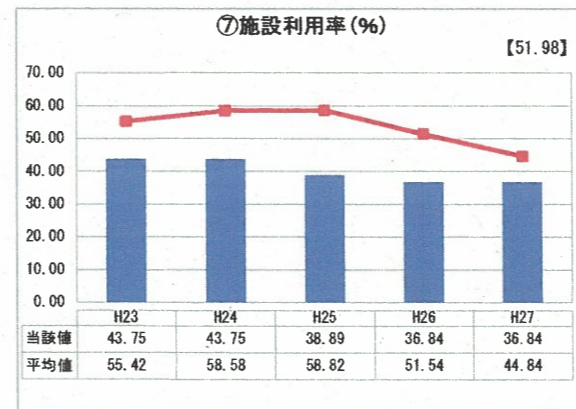
「債務残高」



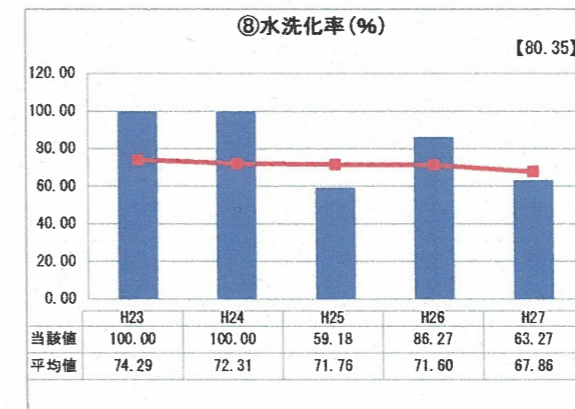
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

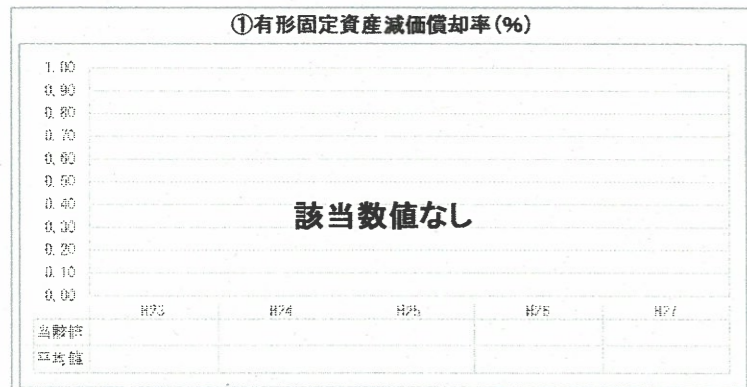


「施設の効率性」

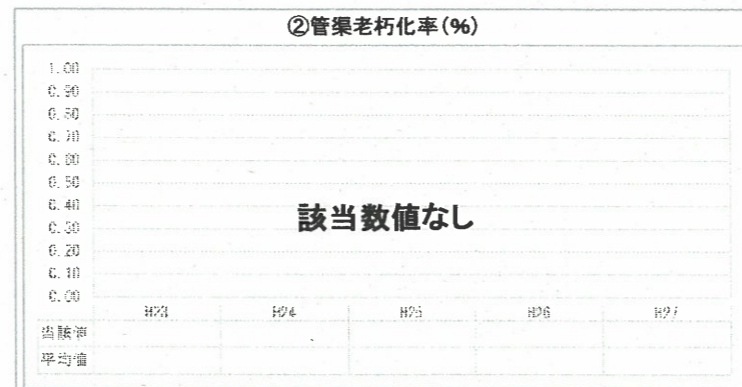


「使用料対象の捕捉」

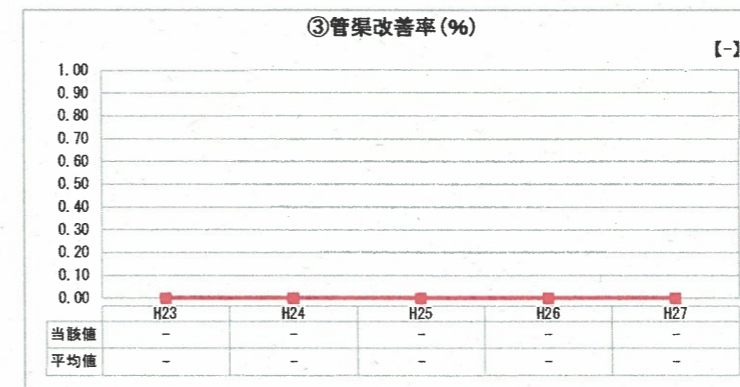
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

下水道への接続が困難な箇所に対して実施する事業のため、対象人数が少なく事業も非常に小規模である。維持管理業務については委託により経費を抑えているが、近年の節水意識の高まりにより水量の減少傾向もあって、汚水処理原価の上昇に対し使用料収入は伸び悩んでいる。このため費用の十分な回収には至っておらず、その度合いも類似団体よりやや低い傾向にある。このため、一般会計からの繰り入れによる支援が不可欠な状況となっている。

### 2. 老朽化の状況について

供用を開始してからまだ年数が浅いため、適正な維持管理を継続することにより引き続き利用可能であると考えられる。

### 全体総括

対象が限定される事業のため、水洗化率の向上による規模の拡大にも限界があり、将来の更新費用の確保を含め、使用料体系の検討を含めた経営改善の取り組みを続けていく必要がある。一方で本事業は地理的要因により集合処理事業を採用できなかった箇所にも採用した側面もあるため、使用料体系を含めた経営改善については、他事業も含めた市の汚水処理事業全体で検討し、実情を踏まえたうえで「経営戦略」を策定して取り組んでいく必要がある。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。